

ガラスブロック壁のメンテナンス

ガラスブロックをいつまでも美しく、また本来の機能・特性を維持するためにも、ガラスブロック施工後にメンテナンスを実施することが必要です。

ガラスブロックは素材がガラスであるため、それ自体は非常に耐候性があり、板ガラスと同じように経年変化の非常に少ない材料であると言えます。

しかし、ガラスブロック開口部を構成する材料には取り合い目地のシーリングのように、ガラスより紫外線の影響を受けやすい材料も使われていますので、定期的なメンテナンスを行うことによりガラスブロック面は機能・特性と美観を長く保つことができます。

モルタル化粧目地、シーリング等のチェックも兼ねて少なくとも年に1回程度のメンテナンス(クリーニング)を行っていただくことをおすすめします。

[1] ガラスブロック

ガラスブロック面が汚れると、太陽光線の透過が低下し、開口部としての働きが低下します。

ガラスブロックのクリーニング方法は一般の板ガラスと同様で、ガラス表面のみを乾いた布で乾拭き、または水、中性洗剤を用いて清浄した後に乾いた布で乾拭きします。

特に付着した汚れが落ちにくい場合にのみ溶剤、弱塩酸などを使いますが、薬剤によりモルタルが悪影響を受ける可能性がありますので、それらの薬剤を使用される際はモルタル化粧目地にそれらの薬剤が触れないように注意してください。

[2] モルタル化粧目地

ガラスブロックのモルタル化粧目地は防水性能を有しているため、汚れが付着したり雨水の浸透によってカビの発生等の可能性が低い材料ですが、経年変化により防水性能の低下や、モルタル化粧目地にヘアクラックが発生する可能性もあります。

通常のガラスブロックのクリーニング時には特にモルタル化粧目地をクリーニングする必要はありませんが、クリーニング時に経年変化による防水性能の低下や、モルタル化粧目地にヘアクラックが認められた場合には、撥水剤の塗布やモルタル化粧目地の部分補修をおすすめします。

撥水剤は浸透性のものがおすすめで、塗布のサイクルは一般的には2～3年以内程度を目安としてください。

また、万が一ヘアクラックが大きい場合にはその部分のモルタル化粧目地をハツリ取り、モルタル接着剤と新たなモルタル化粧目地材を用いて補修することをおすすめします。

[3] シーリング

ガラスブロック面の取り合い目地やエキスパンション目地(伸縮目地)のシーリング材は有機質で、ガラスより温度や水、紫外線等の影響により劣化しやすく、劣化しますと剥離や亀裂が生じ、漏水の原因となりますので、特にクリーニング時のチェックが必要です。

使用するシーリング材の材質にもよりますが、一般的には5年～10年程度を目安としての打ち替えをおすすめします。シーリング材の劣化は雨水の漏水に直結しますので、早目の打ち替えをおすすめします。

打ち替え時期はクリーニング時のチェックにより判断してください。